

市況変化で増減まだら模様

2018年本紙プレカットランキング

18年軸組プレカット工場実績一覧

順位	プレカット企業名(決算月)	年間加工実績	
		坪	前年比(%)
1(1)	ポラテック(3月)	1,296,935	100
2(2)	テクノウッドワークス(12月)	530,000	80
3(3)	中国木材	420,800	104
4(4)	江間忠グループ	247,000	97
5(5)	ハイビック(ヤマエ久野G、3月)	238,300	95
6(6)	宮本工業(9月)	190,000	104
7(8)	原田木材	178,672	105
8(10)	ワイテック(ヤマエ久野G、3月)	165,000	113
9(9)	シー・エス・ランパー(5月)	154,651	98
10(13)	ナイスプレカット(3月)	130,000	108
11(7)	マツシマ林工(8月)	129,142	97
12(11)	スカイ(3月)	120,000	95
13(15)	ナカザワ建販(4月)	118,500	107
14(12)	山西 プレカット事業部(3月)	117,828	96
15(22)	タツミ	112,128	-
16(18)	柴産業	110,000	100
17(20)	アイダ設計	106,500	102
18(16)	大森木材	103,396	87
19(23)	イタヤ(12月)	101,500	109
20(21)	セブン工業	95,216	96
21(24)	大三商行(3月)	94,000	103
22(25)	ゼネラルリブテック(3月)	89,646	96
23(26)	ヨドブレ(OCHI・HD)	87,000	105
24(27)	福栄	80,561	105
25(31)	長谷川萬治商店(3月)	79,940	107
26(29)	ウッディーコイケ	75,341	102
27(一)	けせんプレカット事業協組(3月)	72,104	93
28(30)	マルタイ	69,627	77
29(28)	マツモト(3月)	67,442	89
30(32)	材惣木材	66,293	103
31(一)	村上木材(11月)	63,255	100
32(33)	昭和木材	60,053	103
33(一)	山本進重郎商店	59,008	102
34(36)	ウッドリンク	57,692	98
35(一)	ニッショウ(3月)	55,055	100
36(一)	フヨウプレカット	52,241	105
37(38)	大日本木材防腐(3月)	52,093	99
38(34)	シンホリ	51,783	95
39(37)	須山木材	50,000	92
39(41)	愛媛プレカット(OCHI・HD、3月)	50,000	103

※順位のカッコ内は昨年の記録。決算月を記した企業は年度実績
※ポラテックの加工坪数は売上実績。タツミは2工場分の個別回答を合算

の回答企業62
アンケート
は、出ている
去年並みの仕
事は出てくる
はずだ。
アンケート
の回答企業62

本紙が大手プレカット会社を対象に行った2018年木造軸組プレカット加工実績調査によると、順位にかかわらず増減はまだら模様となった。17年調査では上位企業の増加が目立っていたが、貸家のピークアウトや戸建て分譲向けの戦略的な加工減で混戦。どこもほぼ横ばい水準であるため順位にほとんど変化はないものの、19年に入ると職人・ドライパー、営業・CAD・工員不足、そして省人化のための機械化など、人手不足対応の必要性が急速に顕在化し始めている。

貸家急落・分譲抑制で混戦に

18年のプレカット市場は、16〜17年に比べると多少盛り上がりには欠けたものの大過なく終えた。16年以降の3年間、新設住宅着工戸数は約96万戸で推移し、これがプレカット

工場の安定的な稼働を支えている。ただ17年をピークに貸家が減り始め、木造も18年は減少。16〜17年の木造約54万5000戸から、18年は53万7400戸（前年比1・5%減）へと約8000戸減った。これが多少プレカット市場に影響した。19年も春までは不需求期もあって振るわなかったが、4月に木造の着工戸数が4万5000戸を超え、6月からプレカット工場の受注が増え始めた。これまでの着工推移を見る限り、今年も去年並みの仕事は出てくるはずだ。

また木材総購入量は回答企業41社合計で287万3000立方

（前年比1%増）と増加。非住宅は回答企業42社で34万8000坪（同4%減）と減っている。さらに金物工法比率は回答企業43社平均で18%（同1%増）と、意外と低い結果になった。特殊加工機の台数については、回答企業45社合計97台（同31・1%増）と大幅に増加している。

稼働実績のランキングも、上位陣の順位はほとんど変わらない。引き続きポラテックが断トツで、約129万7000坪（同変わらず）。加工量でも2位以下を大きく引き離すとともに、工場の機械化や物流機能低下への対策など時代に即した工場運営を進めている。19年に入るとこれまで囁かれていた職人不足やドライパー不足がプレカット工場の運営にも支障を来し始め、各社はその対応に迫られている。